

第三段階 初期ユダヤ教宣教

B. 弟子作りの輝かしい最初の週

3. 3日目: 最初の3人の弟子がイエスを信じる

ディリージーザスニュース #033

ヨハネ1.35-42

35 その翌日、ヨハネは再び二人の弟子とともにそこに立っていた。(36) 通り過ぎるイエスを見て、彼は言った。「見よ、神の小羊だ。」(37) ヨハネの二人の弟子は彼がこう言うのを聞いて、イエスに従った。

38 イエスは振り返って、従ってくる彼らをじっと見つめ、彼らに言わされた。「あなたがたは、何を求めているのですか。」

彼らは言いました。「ラビ（「先生」の意味）よ、あなたはどこにお住まいですか？」

39イエスは言わされた。「わたしはあなたに命じる。そうすれば、あなたは見るであろう。」

そこで彼らは行って、イエスが泊まっている場所をよく調べ、その日はイエスと交わりを保った。それは午後四時ごろであった。

40 シモン・ペテロの兄弟アンデレは、ヨハネの言葉を聞いてイエスに従った二人のうちの一人であった。41 アンデレはまず、兄弟シモンを捜してこう言った。

「私たちは本当にメシア（つまりキリスト）を見つけたのです！」42 そして彼は彼をイエスのもとに連れて行きました。

イエスは彼を見つめて言わされた。「あなたは今、ヨハネの子シモンと呼ばれている。あなたはケファと呼ばれるようになる。」（翻訳するとピーター、つまり「岩」になります）。

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク =^M、ルーク =^L、ジョン =^J、使徒行伝 =^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、イエスの言葉は赤の斜体で表記されています。旧約聖書からの引用は大文字で表記されています。

第三段階 初期ユダヤ教宣教

コンテキストダイジェスト

位置	ヨルダン川の東側にあるベタニア
タイムライン	西暦30年3月中旬（第2月）
イエスの生涯	ステージ III: 初期ユダヤ教宣教
	B. 弟子作りの輝かしい最初の週
タイトル	3. 3日目: 最初の3人の弟子がイエスを信じる

コメント :

今日の朗読は、ヨハネの物語のスタイルにおける象徴と繰り返しの巧みな使用を示しています。それはイエスの弟子作りの最初の週の3日目でした。ヨハネは、この節の冒頭で「次の日」と書くことで、このことに注目させました。この3日目に、最初の3人がイエスを救世主として信じ、弟子になりました。このため、3日目は特に重要です。

「第一週」の後半で「三日目に」という表現を再び使用して、強調を続けます。このフレーズの完全な意味は、福音書の最後でイエスが三日目に「死からよみがえるときに明らかになります。ヨハネが物語の重要なポイントでこれらの言葉を繰り返し使用することで、イエスの復活がメシアの生涯と宣教のクライマックスであるという印象が強まります。

イエスを救世主として信じるということは、最初の3人の信者が同時にイエスの「弟子」、つまり「学習者」になったことを意味します。今週の4日目には、さらに2人がイエスの弟子の集団に加わります。この最初の週は、ユダヤでの6か月間のイエスの宣教活動の中心であった個人伝道と弟子訓練のプロセスの典型的な例でした。

イエスが最初の5人の弟子を作った話は、別の理由でも重要です。すべての人が最初の5人の弟子と同じプロセスを経てイエスを信じ、従います。したがって、最初の5人の例は、イエスを信じるすべての人に直接当てはまります。ヨハネが福音書を書いた目的は、読者が最初の5人の弟子と同じように、彼を信じて弟子として従うことでした。

それはどのように起こったのでしょうか。その過程をたどってみましょう。最初の3人はそれぞれ、イザヤ書と旧約聖書の救世主に関する約束に基づいてイエスについて証言していたバプテスマのヨハネの証言を通じて、イエスを信じる信仰の入り口に導かれました。言い換えれば、イエスについての聖書の証言がバプテスマの信徒に信仰をもたらし、バプテスマの信徒は神の言葉から救世主について見聞きしたことと、自分自身の確証的な経験を他の人に伝えました。神は聖書の証言（特に福音書）と信者の証言（バプテスマのヨハネなど）を使って、私たちを信仰の扉に導いてくださいます。

イエスに従い始めた最初の二人の弟子のうちの一人であるアンデレが、すぐに兄弟シモンのもとへ行って福音を伝えた方法に、証言の役割が見られます。アンデレはイエスに救世主を見出したと確信すると、シモンに証言しただけでなく、シモンをイエスのもとに連れて行き、彼自身の目で確かめさせました。

第三段階 初期ユダヤ教宣教

聖書と個人的な証言の役割に加えて、イエスは彼ら一人一人の心に働きかけ、彼らを信仰に導きました。イエスは彼らに自らを現されました。それが彼ら一人一人を、主であり救い主であるイエスに生涯を捧げるところまで導いたのです。真の信仰とは、私たちの人格全体、つまり精神、意志、願望を、私たちが信じる人や物に捧げるという明確な決断です。彼らがイエスを信じる決断は、イエスと直接交流した結果でした。

4日目には、フィリポとナタナエルの改宗において、聖書、証し、イエスとの個人的な交流の同じ組み合わせが一緒に機能するのを見るでしょう。これら3つの要素は、今日でも改宗のレシピを構成し続けています。最初の5人の弟子は、肉体を持ったイエスと個人的に出会いました。ペンテコステ以来、イエスは聖霊を通して私たちと交流し、聖書の真理と信者の証言が私たちにも当てはまるなどを確信させてくれます。私たちの内なる存在の中でイエスの聖霊を通してのこの働きがなければ、誰も心からイエスを信じることはできません。

これらの最初の弟子たちの模範は、私たち一人一人にとって非常に重要なことで、本文中のイエスの言葉に下線を引いた3つのリンクをクリックすることをお勧めします。これらの言葉は、イエスを信じるすべての人の人生にイエスが働く方法を明らかにしているため、特に注目に値します。

弟子作りの最初の輝かしい週の3日目は、イエスの救世主としての働きの最初の成果を示す日でした。その日生まれた新しい弟子はわずか3人でした。しかし、彼らは、聖書の3つの力、信者の証し、そして聖霊による生けるイエスとの個人的な交流を通じて、その後イエスの弟子となった何十億もの人々の最初の人々でした。

応用：

イエスはまず、これらの弟子たちを「見」ました。弟子たちがイエスについて何も知らないずっと前から、イエスは時間をかけて彼らを知るほど彼らを愛していました。イエスは、神だけができることとして、弟子たちにご自身を現し、彼らを信仰に導く前に、弟子たちについてすべて知っていました。

神は私たち一人一人を見て、同じように私たち一人一人を知っています。ですから、私たちは信仰によって神のもとに「行く」という確信を持つことができます。神は、私たちを神から遠ざけるすべてのもの、つまり私たちの罪と失敗をすべて前もって見ておられます。それでも私たちをご自身のために選んでくださったのです。これが愛、つまり神独自の愛なのです。

イエスのもとに来ることと同時に、私たちは同じ確信をもって他の人々に伝道することができます。イエスは、私たちのことをすべて前もって知っておられながら、すでに私たちを受け入れてくださっているので、信仰によってイエスのもとに来る人は誰でも受け入れてくださることを私たちは知っています。

私たちはイエスに予知され、イエスを知るようになったので、他の人々にもイエスを知らせるべきです。

今日は誰と証しを分かち合うことができますか？

今日、あなたはどの弟子の信仰を励ますことができますか？

これをどうやってやるんですか？